

アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成履修証明プログラム
(Certificate Program for Professional of Educational and Learning Support:
ALPS 履修証明プログラム)
2023 年度 募集要項

「アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成履修証明プログラム(ALPS 履修証明プログラム)」は、千葉大学アカデミック・リンク・センターが教育関係共同利用拠点として実施する、大学等の高等教育機関における職員らの教育・学修支援の専門性を高めることを目的とした体系的なプログラムです。

このたび、2023 年度履修開始のプログラム受講生(第 7 期生)を下記の要項で募集します。**2023 年度からは、「ALPS 履修証明プログラム」(120 時間)に加え、「ALPS 履修証明プログラム ショートコース A(教育支援)」(64 時間)、「ALPS 履修証明プログラム ショートコース B(学修支援)」(64 時間)を開設します。**

「ALPS 履修証明プログラム」(120 時間)は大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムとして、文部科学大臣による「職業実践力育成プログラム(BP)」の認定を受けています。

1. ALPS 履修証明プログラムの目的

本プログラムは、千葉大学アカデミック・リンク・センターが実施する、大学等の高等教育機関における職員らの教育・学修支援の専門性を高めるための、体系的な研修プログラムです。本プログラムは、当センターによる調査結果から抽出した「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目」及び「教育・学修支援の専門性に必要な能力ルーブリック」に基づき作成されています^{*}。教育・学修支援に必要な知識・技能を獲得するとともに、先進事例から実践的に学ぶことを通じて、大学等に関わる方々に必要となる教育・学修支援の専門性を高めます。

ALPS 履修証明プログラム(120 時間)では能力ルーブリック A 段階(知識やスキルを実践の場の問題解決に応用できる)、各ショートコース(64 時間)では B 段階(身に付けた知識を説明できる)までの内容を学ぶことができます。

各ショートコース(64 時間)では、能力ルーブリックに基づく 15 テーマのうち、教育支援または学修支援の内容を中心として、8 テーマを履修します。そのうち 5 テーマは共通で、教育・学修支援の専門性向上に必須となる知識やスキルを身に付けるための内容です。共通テーマに加えて、以下のテーマを履修します。

- ・ショートコース A (教育支援) : 大学教育におけるデジタル化の進展に対応した教育支援の在り方や内容の理解、背景となる教育プログラムの知識など教育支援に必要な 3 テーマ
- ・ショートコース B (学修支援) : 学習環境のあり方や学修支援を行う上で背景となる、学生を取り巻く状況や学習行動を理解するための方法や技術など学修支援に必要な 3 テーマ

^{*}「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目」及び「教育・学修支援の専門性に必要な能力ルーブリック」の詳細は、千葉大学アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成プログラムウェブサイト(<https://alc.chiba-u.jp/ALPS/>)をご参照ください。

2. 申込資格

以下の(1)及び(2)を満たす者。

(1) 大学を卒業し、学士の学位を有する者またはこれと同等以上の学力を有すると本センターが認めた者*。

(2) 以下のいずれかを満たす者。

① 大学その他の高等教育機関において教育・学修支援に携わる者。

② 大学その他の高等教育機関における教育・学修支援に関心があり、将来、大学その他の高等教育機関において教育・学修支援に携わる希望がある者。

※事前に本センターまでお問い合わせください。

3. 募集定員

ALPS 履修証明プログラム(120 時間) 10 名程度

ALPS 履修証明プログラム ショートコース A(教育支援)(64 時間) 10 名程度

ALPS 履修証明プログラム ショートコース B(学修支援)(64 時間) 10 名程度 合計 30 名程度

4. 履修期間と修了の要件

本プログラムは、4 か月を 1 つのタームとしています。履修期間は、ALPS 履修証明プログラム(120 時間)は 1 年 4 か月、各ショートコース(64 時間)は 1 年となっています。タームごとの開講テーマなど詳しくは「6. 履修に関する日程」を参照してください。

ALPS 履修証明プログラム(120 時間)

基盤的テーマおよび総合的、総括的テーマの 15 テーマ(計 120 時間以上)すべてにおいて、各テーマの修了要件を満たすこと。修了には 1 年 4 か月の履修期間(ターム 1~ターム 4)が求められます。

ALPS 履修証明プログラム 各ショートコース(64 時間)

基盤的テーマのうち、決められた合計 8 テーマ(計 64 時間)の修了要件を満たすこと(履修すべきテーマは「5. 開講テーマ」を参照)。修了には 1 年の履修期間(ターム 1~ターム 3)が求められます。

決められたテーマを修了し、千葉大学アカデミック・リンク・センター教員会議で認定された場合、学校教育法 105 条の規定に基づき、「アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成履修証明プログラム」履修証明書を授与します。

5. 開講テーマ

5-1) 2023 年度開講テーマ

| テーマ分類(授業形式) | テーマ名※ | 履修すべきテーマ | | |
|-----------------------|-----------------------|----------|-----------------|-----------------|
| | | 120 時間 | 64 時間 (教育支援) | 64 時間 (学修支援) |
| 基盤的テーマ (遠隔授業) | 1) 高等教育をめぐる政策動向 | ✓ | ✓ | ✓ |
| | 2) 自校理解 | ✓ | ✓ | ✓ |
| | 3) 学生・学修の調査と分析 | ✓ | ✓ | ✓ |
| | 4) 学生の抱える困難の理解と支援 | ✓ | ✓ | ✓ |
| | 5) 高等教育の国際化対応 | ✓ | ✓ | ✓ |
| | 6) 教育・学修における DX | ✓ | ✓ | |
| | 7) 教材開発支援と著作権 | ✓ | ✓ | |
| | 8) 教育プログラムの設計と評価 | ✓ | ✓ | |
| | 9) アカデミック・アドバイジング | ✓ | | ✓ |
| | 10) 学習環境の設計と評価 | ✓ | | ✓ |
| | 11) 教育・学修の方法と学修支援サービス | ✓ | | ✓ |
| 総合的テーマ (遠隔授業+対面授業) | 12) 教育・学修支援マネジメント(1) | ✓ | | |
| | 13) 教育・学修支援マネジメント(2) | ✓ | | |
| 総括的テーマ (遠隔授業+対面授業) | 14) プロジェクト研究・実習(1) | ✓ | | |
| | 15) プロジェクト研究・実習(2) | ✓ | | |

※2021 年度以降に実施した ALPS 公開講座の修了歴のある方は、本プログラムにおいて「教材開発支援と著作権」の履修免除が可能です(ただし、受講料の減免はありません)。

5-2) 各テーマの授業形式

遠隔授業(オンデマンド型)、遠隔授業(オンライン同時双方向型)、対面授業を組み合わせで実施します。

基盤的テーマ

・遠隔授業(オンデマンド型+オンライン同時双方向型)。すべてオンラインで受講可能です。

総合的テーマおよび総括的テーマ

- ・対面授業と遠隔授業(オンライン同時双方向型)の組み合わせで実施します。
- ・対面授業では、実際に集合することを想定しています。ただし、集合参加が難しい方には、オンライン参加の対応をいたします。会場は千葉大学西千葉キャンパスの予定です。交通費・宿泊費等が発生する場合は自己負担となります。
- ・総合的テーマおよび総括的テーマにおける遠隔授業(オンライン同時双方向型)は、担当教員やグループメンバーとのミーティングです。随時日程調整し、実施します。

6. 履修に関する日程

| | 日程 | 開講テーマ |
|-------|---|---|
| ターム 1 | 基盤的テーマ 遠隔授業(オンデマンド型)※ 2023年10月13日(金)～ 遠隔授業(オンライン同時双方向型) 2023年12月2日(土) 12月16日(土) | 1) 高等教育をめぐる政策動向 2) 自校理解 8) 教育プログラムの設計と評価 10) 学習環境の設計と評価 |
| | 総合的・総括的テーマ 対面授業 2023年10月28日(土) 遠隔授業(オンライン同時双方向型) 随時ミーティング | 12) 教育・学修支援マネジメント(1) 14) プロジェクト研究・実習(1) |
| | ターム 2 | |
| | 基盤的テーマ 遠隔授業(オンデマンド型) 2024年2月13日(火)～ 遠隔授業(オンライン同時双方向型) 2024年5月中に1回 | 3) 学生・学修の調査と分析 7) 教材開発支援と著作権 9) アカデミック・アドバイジング |
| | 総合的・総括的テーマ 遠隔授業(オンライン同時双方向型) 随時ミーティング ※総合的テーマは基盤的テーマの日程に合わせて実施します。 | 12) 教育・学修支援マネジメント(1) 14) プロジェクト研究・実習(1) |
| ターム 3 | 基盤的テーマ 遠隔授業(オンデマンド型) 2024年6月10日(月)～ 遠隔授業(オンライン同時双方向型) 2024年8月下旬～9月上旬に2日間 | 4) 学生の抱える困難の理解と支援 5) 高等教育の国際化対応 6) 教育・学修におけるDX 11) 教育・学修の方法と学修支援サービス |
| | 総合的・総括的テーマ 対面授業 2024年8月下旬～9月上旬に1回 遠隔授業(オンライン同時双方向型) 随時ミーティング | 13) 教育・学修支援マネジメント(2) 15) プロジェクト研究・実習(2) |
| | 2024年9月30日(月) 各ショートコース(64時間)履修者 受講終了 | |
| | ターム 4 | |
| | 総合的・総括的テーマ 対面授業 2024年12月中旬に2回(成果報告会) 遠隔授業(オンライン同時双方向型) 随時ミーティング | 13) 教育・学修支援マネジメント(2) 15) プロジェクト研究・実習(2) |
| | 2025年1月31日(金) ALPS 履修者証明プログラム(120時間)履修者 受講終了 | |

※遠隔授業(オンデマンド型)開始時期や期間などの詳細は、変更することがあります。

7. 各テーマの概要

| 「各テーマの概要」の見方 | |
|--------------|---|
| キーワード | 履修生がテーマの内容を概観できるよう、当該テーマで扱う主なトピックを示しています。 |
| ルーブリックとの対応 | 当該テーマと「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目・能力ルーブリック」との対応関係を示すものです。詳細は、「アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成プログラム」のパンフレット、または、ウェブサイト(https://alc.chiba-u.jp/ALPS/sd.html)のカリキュラムマップをご確認ください。 |
| 開講期 | 当該テーマの開講期を示しています。 |
| コーディネータ | テーマ全体の運営・調整を行う担当教員を示しています。なお、各テーマは、学内・学外から講師を招聘し実施します。 |
| 目的 | 履修生が当該テーマを履修する意味や意義について示しています。 |
| 到達目標 | 当該テーマ修了段階で、履修生ができるようになることが望ましい事柄を示しています。 |
| 修了要件 | 当該テーマを修了するために履修生が満たすべき要件を示しています。 |

※遠隔授業は自宅又は勤務先での受講となります。各遠隔授業、対面授業の実施時間数は予定です。

| 1) 高等教育をめぐる政策動向 | |
|-----------------|---|
| キーワード | 高等教育政策の動向、大学評価、内部質保証、学修成果 |
| ルーブリックとの対応 | 大学について理解を深める(C) 学生・学修・教育支援の理解を深める(C) 担当業務を深める(C) 業務において連携・協働する(B) |
| 開講期 | ターム 1 |
| コーディネータ | 白川優治 |
| 目的 | 高等教育政策とその背景にある社会変動を踏まえ、教育・学修支援に関係する大学政策(大学評価や教育の質保証など)を理解することを目的とします。高等教育政策の動向を踏まえながら、自大学の教育・学修支援の取組みに具体的な改善に結び付けるための基礎的能力を修得します。 |
| 到達目標 | ・高等教育政策の制度・政策の現状、大学を取り巻く環境などについての基本的な理解を身に付ける。 ・自大学のさまざまな取り組み状況を他校と比較しながら現状を理解し、自大学の今後の教育・学修支援の現状と課題を説明することができる。 |
| 修了要件 | 8 時間の学習(遠隔授業(オンデマンド型)6 時間、遠隔授業(オンライン同時双方向型)2 時間)(時間数は予定) |

| 2) 自校理解 | |
|------------|---|
| キーワード | 日本の高等教育(特に大学)の歴史、学校の設置者、高等教育関連法令(戦前・戦後を含む) |
| ルーブリックとの対応 | 大学について理解を深める(B) 担当業務を深める(C) 業務において連携・協働する(C) |
| 開講期 | ターム 1 |
| コーディネータ | 松本暢平 |
| 目的 | 法令等では一括されるが、教育機関はそれぞれが歴史・理念、位置づけを有し、それらに影響されて存立している。このテーマは、大学を例に、高等教育にかかわる政策等の動向を考慮しながら、各受講者が、日本の高等教育がどのように発展してきたかを理解することを第一の目的とする。そして、自身の所属機関の歴史・理念、位置づけを把握し、その構成員としてどのようなスタンスで業務に臨むべきかを問い直すことを第二の目的とする。遠隔授業(オンライン同時双方向型)では、事前課題にもとづくワークショップを行う。各受講者が、所属機関の構成員として求められる振舞いについて、他機関の事例の共有・参照から気づきを得る機会とする。 |
| 到達目標 | ・高等教育について、その制度・成立過程、それを取り巻く環境等を説明することができる。 ・各々の所属機関の歴史・理念、位置づけをふまえ、他機関と比較しながら、所属機関特有の教育・学修支援の現状・課題、今後行うべきとくみについて説明することができる。 |
| 修了要件 | 8 時間の学習(遠隔授業(オンデマンド型)6.5 時間、遠隔授業(オンライン同時双方向型)1.5 時間)(時間数は予定) |

| 3) 学生・学修の調査と分析 | |
|----------------|--|
| キーワード | インタビュー調査、アンケート調査、記述統計、業務と研究、Institutional Research |
| ルーブリックとの対応 | 大学について理解を深める(C) 学生・学修・教育支援の理解を深める(B) 担当業務を深める(C) 業務において連携・協働する(C) 教育・学修支援の新たな方向性を構想する(C) |
| 開講期 | ターム2 |
| コーディネータ | 岡田聡志 |
| 目的 | 教育・学修に関する現状を把握し、改善に活かしたり、新たな方針を策定したりするための方法や技術を修得することを目的とする。より具体的には、教育・学修という文脈における質的・量的調査などのデータ収集の進め方やその後の分析方法、その実践事例等を取り扱うことにより、履修生自身の実践に結び付け、活用できるようになることを狙いとする。 |
| 到達目標 | ・教育・学修支援の文脈に応じたデータ収集の進め方や分析方法を理解する。 ・収集したデータを分析し、教育・学修支援の改善や設計に利用することができる。 |
| 修了要件 | 8時間の学習(遠隔授業(オンデマンド型)6時間、遠隔授業(オンライン同時双方向型)2時間)(時間数は予定) |

| 4) 学生の抱える困難の理解と支援 | |
|-------------------|--|
| キーワード | 学生生活、学生支援、障がいのある学生の修学支援、カウンセリング、連携・協働 |
| ルーブリックとの対応 | 学生・学修・教育支援の理解を深める(B) 担当業務を深める(C) 学生と関わる(B) 業務において連携・協働する(C) |
| 開講期 | ターム3 |
| コーディネータ | 我妻鉄也 |
| 目的 | 学修や学生生活において学生が抱える困難を理解し、これらへの対応方法や支援策に関する知識を身に付けるとともに、個々の学生の課題を踏まえた、対応方法や支援策、連携・協働の在り方について説明できることを目的とする。 遠隔授業(オンライン同時双方向型)では、講義やロールプレイング演習を通じて、困難を抱える学生に対応するためのカウンセリングの基本技法や、他者と連携・協働する上で効果的なコミュニケーションの基本を習得することを目指す。 |
| 到達目標 | ・学生が抱える困難の現代的課題を理解し、説明することができる。 ・困難を抱える学生への対応方法や支援策について基本的な知識を身に付けており、説明することができる。 ・困難を抱える学生への対応について総合的に理解し、所属大学内の取組に応用する。 |
| 修了要件 | 8時間の学習(遠隔授業(オンデマンド型)4時間、遠隔授業(オンライン同時双方向型)4時間)(時間数は予定) |

| 5) 高等教育の国際化対応 | |
|---------------|--|
| キーワード | 留学生、留学生の受け入れ、海外留学、キャンパスのグローバル化、危機管理、国際交流 |
| ルーブリックとの対応 | 大学について理解を深める(C) 学生・学修・教育支援の理解を深める(C) 担当業務を深める(C) 学生と関わる(B) 業務において連携・協働する(C) |
| 開講期 | ターム3 |
| コーディネータ | 織田雄一 |
| 目的 | 高等教育の国際化を切り口として、所属大学(あるいは特定の大学)の方針や位置づけ、適切な学生対応について考える能力を身につけることを目的とする。遠隔授業(オンライン同時双方向型)では、事前課題に基づくグループワークを通じて、大学の国際化、大学における留学生や海外留学支援に関する理解を深め、留学生に対する効果的なコミュニケーションの方法、危機管理を含めた海外留学支援のサポートなどを身に付けることをめざす。 |
| 到達目標 | ・所属大学の国際化政策と教育課程や授業内容のつながりについて理解している。 ・国内・海外の大学の国際化対応の現状について理解し、その上で所属大学の位置付けを把握する。 ・留学生を含む多様な学生へのコミュニケーションなど効果的な支援のあり方について説明することができる。 ・業務における他者・他機関との連携・協働やネットワーキングの意義を認識している。 |
| 修了要件 | 8時間の学習(遠隔授業(オンデマンド型)5時間、遠隔授業(オンライン同時双方向型)3時間)(時間数は予定) |

| 6) 教育・学修におけるDX | |
|----------------|--|
| キーワード | メディア授業、オンライン学習プラットフォーム、プライバシー、情報セキュリティ、情報倫理 |
| ルーブリックとの対応 | 学生・学修・教育支援の理解を深める(B) 担当業務を深める(C) 学生と関わる(C) 業務において連携・協働する(B) 教育・学修支援の新たな方向性を構想する(B) |
| 開講期 | ターム3 |
| コーディネータ | 檜垣泰彦、藤本茂雄 |
| 目的 | 教育・学修支援の新たな方向性を構想するために必要となる、効率的かつ効果的な教育・学修支援や教育活動に必要なテクノロジーの活用事例を知り、その活用に必要なテクノロジーの仕組みやルールを理解することを目的とする。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育・学修支援や教育活動における新しいテクノロジー活用事例を知っている。 ・教育・学修支援や教育活動において使用されているテクノロジーの仕組みについて説明することができる。 ・教育・学修支援においてテクノロジーを活用する上で遵守すべき関係法令や倫理について説明することができる。 |
| 修了要件 | 8時間の学習(遠隔授業(オンデマンド型)6時間、遠隔授業(オンライン同時双方向型)2時間)(時間数は予定) |

| 7) 教材開発支援と著作権 | |
|---------------|--|
| キーワード | デジタル教材、メディア授業、著作権、教育の質、授業目的公衆送信補償金制度 |
| ルーブリックとの対応 | 学生・学修・教育支援の理解を深める(B) 担当業務を深める(B) 業務において連携・協働する(C) 教育・学修支援の新たな方向性を構想する(B) |
| 開講期 | ターム2 |
| コーディネータ | 竹内比呂也 |
| 目的 | コロナ禍においては緊急対応という形で教育のデジタル化が広くなされたが、ポストコロナの時代においては、教育の質を高めるという観点からデジタル化は継続的に行われると思われる。その際に重要なのはデジタル教材の利活用を実現することであり、教育・学修支援という観点からは教育や学習に著作物を適切に作成・利用する環境を整備することと法制度を理解した上でそれらの適切な利用を促すことが重要となる。このテーマでは、そのような観点から、今日の大学教育における教材の意義、著作権法の基礎、及び授業目的公衆送信補償金制度など教材にかかる制度等についての理解を深める。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・今日の教育・学習における教材の意義を理解し、説明できる。 ・著作権の基礎、授業目的公衆送信補償金制度について理解し、教材を利用しようとしている教員・学生に対して助言できる。 |
| 修了要件 | 8時間の学習(遠隔授業(オンデマンド型)8時間)(時間数は予定) |

| 8) 教育プログラムの設計と評価 | |
|------------------|---|
| キーワード | プログラム評価、大学評価、学習成果の可視化、内部質保証、カリキュラム |
| ルーブリックとの対応 | 大学について理解を深める(B) 学生・学修・教育支援の理解を深める(B) 担当業務を深める(C) 業務において連携・協働する(B) 教育・学修支援の新たな方向性を構想する(C) |
| 開講期 | ターム1 |
| コーディネータ | 岡田聡志 |
| 目的 | 大学における様々な教育プログラムの構造や特徴について、その設計の基本原則を理解するとともに、質保証及び学習成果の観点から評価のあり方について、理論だけでなく、具体的な実践事例をもとに批判的に検討することを通じて、応用することを目的とする。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・高等教育における教育プログラムの多様性と特徴、構造について理解し、説明することができる。 ・教育プログラムの評価について、そのあり方や現代的課題について理解し、応用することができる。 |
| 修了要件 | 8時間の学習(遠隔授業(オンデマンド型)6時間、遠隔授業(オンライン同時双方向型)2時間)(時間数は予定) |

| 9) アカデミック・アドバイザー | |
|------------------|---|
| キーワード | 学修支援、学習者、アカデミック・アドバイザー、アカデミック・アドバイザー |
| ルーブリックとの対応 | 大学について理解を深める(C) 学生・学修・教育支援の理解を深める(B) 学生と関わる(B) 業務において連携・協働する(B) |
| 開講期 | ターム2 |
| コーディネータ | 我妻鉄也 |
| 目的 | アカデミック・アドバイザーの基本的な考え方や意義、アドバイザーの役割や必要な能力、アカデミック・アドバイザーの手法、といったアカデミック・アドバイザーに関する知識を身に付ける。また、個別的なアカデミック・アドバイザーの際に留意すべき点などを理解する。遠隔授業(オンライン同時双方向型)では、事前課題やケースによるワークショップを通じたアカデミック・アドバイザーに関する理解に基づいて、他者との協働を目指す。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・アカデミック・アドバイザーについて理解し、説明することができる。 ・個々の学生の学習上の課題を踏まえたアカデミック・アドバイザーについて理解し、その際の留意点を説明できる。 ・アカデミック・アドバイザーの基本的な知識に基づき、学生に対する効果的なコミュニケーションの在り方を説明できる。 ・アカデミック・アドバイザーを実施するために、他箇所の職員等の連携を含めて、協働する体制を構築することの重要性を理解し、説明することができる。 |
| 修了要件 | 8時間の学習(遠隔授業(オンデマンド型)5時間、遠隔授業(オンライン同時双方向型)3時間)(時間数は予定) |

| 10) 学習環境の設計と評価 | |
|----------------|---|
| キーワード | 学習環境デザイン、自律学習、同期/非同期学習、実践共同体、プロセス評価、教職学生協働 |
| ルーブリックとの対応 | 大学について理解を深める(C) 学生・学修・教育支援の理解を深める(B) 担当業務を深める(C) 業務において連携・協働する(B) |
| 開講期 | ターム1 |
| コーディネータ | 國本千裕 |
| 目的 | 学修の質を高めて自律学習を促す学習環境の特性と、物理空間およびオンラインにおける学生の学習実態、教育・学習支援と学習環境の関わりについて理解する。学習環境の設計・運営・改善・評価、環境構築に欠かせない全学連携(教職学生協働)等について、具体的な事例の学習を通じて理解する。遠隔授業(オンライン同時双方向型)では、実際に学習環境や学習支援サービスを設計・運営した経験をもつ教職員を交えてワークショップを行い、その実践上の課題等について理解を深める。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習環境と学習支援の関係性、学習環境の設計・運営時に考慮すべき事項、各種協働等について、実践例を元に理解を深める。 ・各受講生が、習得した知識や他機関の事例をもとに、所属機関の教育理念や状況をふまえた学習環境を設計・運営・改善するための方策について説明できる。 |
| 修了要件 | 8時間の学習(遠隔授業(オンデマンド型)5時間、遠隔授業(オンライン同時双方向型)3時間)(時間数は予定) |

| 11) 教育・学修の方法と学修支援サービス | |
|-----------------------|---|
| キーワード | アクティブ・ラーニング、真正の学習、レリバンズ、ピアサポート、学習共同体 |
| ルーブリックとの対応 | 大学について理解を深める(B) 学生・学修・教育支援の理解を深める(B) 業務において連携・協働する(B) 教育・学修支援の新たな方向性を構想する(C) |
| 開講期 | ターム3 |
| コーディネータ | 松本暢平、國本千裕 |
| 目的 | 教育・学修の方法について、これまで展開されてきた議論や事例を理解する。各受講者が所属機関において教職協働を果たし、教育・学修支援活動にどのように関わられるかを問い直す。さらに、学修支援サービスの実施(設計・運用・評価・改善)にあたり、考慮すべき事項、支援についての基本的な考え方と支援姿勢、ピアサポーターとの連携等について、多様な学習支援の事例をもとに学ぶ。 |

| | |
|------|--|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育・学修の方法に関する基本的な知識を得る。学修支援における基本姿勢、支援サービスの実施にあたり考慮すべき事項等について理解する。 ・習得した知識や他機関の事例をもとに、各受講生が所属機関における「学修支援サービス」を企画・実施・改善するための方策について説明できる。 |
| 修了要件 | 8時間の学習(遠隔授業(オンデマンド型)8時間)(時間数は予定) |

| 12) 教育・学修支援マネジメント (1) | |
|-----------------------|---|
| キーワード | 教育支援、学修支援、学生支援、問題解決学習、グループワーク |
| ルーブリックとの対応 | 大学について理解を深める(C) 学生・学修・教育支援の理解を深める(C) 担当業務を深める(C) 学生と関わる(C) 業務において連携・協働する(C) 教育・学修支援の新たな方向性を構想する(C) |
| 開講期 | ターム 1～2 |
| コーディネータ | 全担当教員 |
| 目的 | 履修生がグループワークにて課題設定から課題の探求に主体的に取り組むことで、教育・学修支援を実践するための手法を修得することを目的とする。 |
| 到達目標 | 教育・学修支援の専門性に必要な能力項目に関わる基本的な知識を包括的に理解している。 |
| 修了要件 | 対面授業及び遠隔授業(オンライン同時双方向型)計 8 時間を(予定)を受講し、グループワークに参加すること。 |

| 13) 教育・学修支援マネジメント (2) | |
|-----------------------|---|
| キーワード | 教育支援、学修支援、学生支援、問題解決学習、グループワーク |
| ルーブリックとの対応 | 大学について理解を深める(B) 学生・学修・教育支援の理解を深める(B) 担当業務を深める(B) 学生と関わる(B) 業務において連携・協働する(B) 教育・学修支援の新たな方向性を構想する(B) |
| 開講期 | ターム 3～4 |
| コーディネータ | 全担当教員 |
| 目的 | 履修生がグループワークにて課題の探求や成果報告の作成に主体的に取り組むことで、教育・学修支援を実践するための手法を修得することを目的とする。 |
| 到達目標 | 教育・学修支援の専門性に必要な能力項目に関わる基本的な知識を身につけており、その知識を他者に説明できる。 |
| 修了要件 | 対面授業及び遠隔授業(オンライン同時双方向型)計 8 時間を(予定)を受講し、グループワークに参加するとともに、テーマ修了時に実施予定の成果報告会で発表を行うこと。 |
| 特記事項 | 本テーマを受講するには、「教育・学修支援マネジメント(1)」を修了していることが前提となる。 |

| 14) プロジェクト研究・実習 (1) | |
|---------------------|---|
| キーワード | 教育支援、学修支援、学生支援、問題解決学習、個人研究 |
| ルーブリックとの対応 | 大学について理解を深める(A) 学生・学修・教育支援の理解を深める(A) 担当業務を深める(A) 学生と関わる(A) 業務において連携・協働する(A) 教育・学修支援の新たな方向性を構想する(A) |
| 開講期 | ターム 1～2 |
| コーディネータ | 全担当教員 |
| 目的 | 本テーマでは、実際に、教育・学修支援を推進する際に生じる諸問題について、個々の履修生が課題を設定し、クリティカルに追求し、具体的課題解決を検討、企画・実践する能力を身につけることを目的とする。 |
| 到達目標 | これまでに身につけた教育・学修支援に関わる知識・スキルを実践の場の問題解決に応用することができる。 |
| 修了要件 | 対面授業及び遠隔授業(オンライン同時双方向型)にて、担当教員の指導を受けること。 |

| 15) プロジェクト研究・実習 (2) | |
|---------------------|---|
| キーワード | 教育支援、学修支援、学生支援、実践、実習 |
| ルーブリックとの対応 | 大学について理解を深める(A) 学生・学修・教育支援の理解を深める(A) 担当業務を深める(A) 学生と関わる(A) 業務において連携・協働する(A) 教育・学修支援の新たな方向性を構想する(A) |
| 開講期 | ターム 3～4 |
| コーディネータ | 全担当教員 |
| 目的 | 本テーマでは、「プロジェクト研究・実習(1)」での研究・実習を、さらに深め、設定した課題について、クリティカルに追求するとともに、実践的にその高度化を図ることで、具体的課題解決を検討、企画・実践する能力を身につけることを目的とする。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに身につけた教育・学修支援に関わる知識・スキルを実践の場の問題解決に応用することができる。 ・これまでの研究・実習の成果を取りまとめ、発信することができる。 |
| 修了要件 | 担当教員指導の下、研究・実習を進め、テーマ修了時に実施予定の成果報告会で発表を行うこと。 |
| 特記事項 | 本テーマを受講するには、「プロジェクト研究・実習(1)」を修了していることが前提となる。 |

8. 担当教員一覧

2023年度生を担当する教員一覧です。

| 教員名 | 所属・職名 | 専門分野 |
|-------|----------------------|--------------------|
| 竹内比呂也 | ALC センター長、人文科学研究院・教授 | 図書館情報学 |
| 檜垣 泰彦 | ALC 副センター長・准教授 | ソフトウェア工学、情報システム学 |
| 國本 千裕 | ALC 副センター長・准教授 | 図書館情報学 |
| 白川 優治 | 国際学術研究院・准教授 | 教育社会学、教育行財政学、高等教育論 |
| 山本 和貴 | 工学研究院・准教授 | 物性物理学 |
| 織田 雄一 | 国際未来教育基幹・教授 | 国際教育学、高等教育政策論 |
| 岡田 聡志 | 国際未来教育基幹・准教授 | 高等教育論、教育社会学、社会調査法 |
| 藤本 茂雄 | 国際未来教育基幹・講師 | 物理学 |
| 松本 暢平 | 国際未来教育基幹・助教 | 教育社会学 |
| 我妻 鉄也 | ALC・特任助教 | 比較教育学、高等教育論 |

※所属機関は、いずれも千葉大学。ALC=千葉大学アカデミック・リンク・センター

※千葉大学所属教員以外に、テーマにより外部講師を予定

9. 申込方法

9-1) 申込書類

申込書類は、千葉大学アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成プログラムウェブサイト (<https://alc.chiba-u.jp/ALPS/sd/>) よりファイルをダウンロードし、必要事項を記入してください。

9-2) 提出方法

個人情報を含む書類ですので、必ず以下の手順で提出してください。

①申込受付

まず、申込受付アドレス alps-apply@chiba-u.jp に以下の内容でメールをお送りください。

件名:ALPS 履修証明プログラム申込(第7期生)

本文:お名前、ご所属、ご連絡先メールアドレスを明記

この時点ではまだ申込書類を送らないでください。

②申込書類のアップロード

事務局より、申込書類のアップロード方法を、いただいたご連絡先にメールでお知らせいたします。

案内に沿って提出してください。

このアップロードを以て申込完了となります。

9-3) 申込期間

①受付期間 2023年8月28日(月)～9月13日(水)

②アップロード期限 9月14日(木)まで

9-4) 受講開始までの日程

| | |
|--|------------------|
| (1) 申込書類締切 | 2023年9月14日(木) |
| (2) 選考結果通知 (学習管理システムへのログインパスワード・IDの通知・振り込み案内の送付を含む) | 2023年10月上旬 |
| (3) 受講料の支払い | 2023年10月27日(金)まで |
| (4) ターム1開始 (基盤的テーマ遠隔授業(オンデマンド型)開始) | 2023年10月13日(金) |

10. 受講料について

ALPS 履修証明プログラム(120 時間) 120,000 円

ALPS 履修証明プログラム各ショートコース(64 時間) 64,000 円

受講決定通知後、受講料を2023年10月27日(金)までに振り込み願います。なお、支払われた受講料は、返金いたしません。プログラムを途中で辞退された場合でも同様です。

11. 授業の欠席について

急病や業務の関係でやむを得ず授業(対面授業、遠隔授業)を欠席せざるを得ないときは、「欠席届兼個別対応申請書」を提出していただきます。当センターで個別対応の可否を判断し個別対応が認められた場合は、一部のテーマでは、授業の動画の視聴及び追加課題等により、テーマの修了認定が行われます。ただし、すべてのテーマが対応しているわけではありません。

12. プログラムの休止・辞退・除籍・移行について

休止または辞退する場合は、所定の手続きが必要です。また、決められた期間内に必要なテーマの受講を修了できない場合や、当センターで不適格と判断された場合は、除籍となります。なお、いかなる場合も支払われた受講料は返金いたしません。

ALPS 履修証明プログラム(120 時間)

学修時間 120 時間の履修証明プログラムであり、修了には1年4か月の履修期間が求められます。休止後に履修を再開した場合も、本来の受講終了時期から2年以内に全テーマの受講を終了することが求められます。

ALPS 履修証明プログラム各ショートコース(64 時間)

学修時間 64 時間の履修証明プログラムであり、修了には1年の履修期間が求められます。最大履修期間は休止期間を含め2年となっています。休止後に履修を再開した場合も、本来の受講終了時期から1年以内に決められたテーマの受講を終了することが求められます。

各ショートコース(64 時間)履修者が「ALPS 履修証明プログラム」(120 時間)への移行を希望する場合は、ご相談ください。なお、受講時には差額(56,000 円)をお支払いいただく予定です。

13. 教育訓練給付制度(専門実践教育訓練)について

本プログラムは、厚生労働省「教育訓練給付制度」の専門実践教育訓練給付対象講座です。

教育訓練給付金を受給する場合は、受講開始日の 1 か月前までに、厚生労働大臣が定めるキャリアコンサルタントによる訓練前コンサルティングを受け「ジョブカード」を作成し、公共職業安定所(ハローワーク)の窓口へ必要書類を提出(受給資格確認申請)して、「受給資格者証」を取得する必要があります。

詳しくは、本人の住居所を管轄する公共職業安定所(ハローワーク)へお問い合わせください。

本制度を利用予定の方は、申込書にその旨を必ず明記してください。

※ただし、2023 年度は諸事情により、本制度が利用いただけない可能性がございます。利用可否は、決定次第 web サイトでご案内いたします。なお、利用いただける場合でも、2023 年度は「ALPS 履修証明プログラム(120 時間)」のみ利用可、各ショートコース(64 時間)履修においては利用することができません。予めご了承ください。

14. 問い合わせ先

千葉大学アカデミック・リンク・センター 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33

TEL:043-290-2891 Mail:alps-info@chiba-u.jp

2023年度アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成履修証明プログラム
申込書（記入例）

※この様式は web サイトからダウンロードできます

西暦 20xx 年 x 月 x 日 現在

| | | |
|-------|--|-------------------------|
| フリガナ | チバ タロウ | 写真添付 |
| 氏名 | 千葉 太郎 | |
| 西暦 | xxxx 年 x 月 x 日生（満 xx 歳） | |
| フリガナ | マルマルダイガク | |
| 所属機関 | 〇〇大学 | |
| 部署・職位 | △△課□□係・係長 | |
| フリガナ | マルマルケンサンカクシシカクチョウ | |
| 連絡先 | 〒xxxx-xxxx 〇〇県△市□町●丁目●-● <input checked="" type="checkbox"/> 所属機関 <input type="checkbox"/> 自宅 ※当センターからの連絡先としてどちらかにチェックを入れ、その住所をご記入ください。 | |
| TEL : | xxx-xxx-xxxx | E-Mail : xxx@xxxx.ac.jp |

| | |
|----------|----------------------|
| 最終学歴（年月） | 〇〇大学△△学部 卒業（xxxx年x月） |
|----------|----------------------|

このプログラムで学びたいと思った理由やきっかけをご記入ください。

記入してください

履修希望プログラム 履修を希望するものにチェックを入れてください。また、選択理由を以下に記入してください。

ALPS 履修証明プログラム（120時間）
ALPS 履修証明プログラム ショートコース A（教育支援）（64時間）
ALPS 履修証明プログラム ショートコース B（学修支援）（64時間）

理由：
記入してください

2023年度アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成履修証明プログラム
申込書（記入例）

※この様式は web サイトからダウンロードできます

教育・学修支援に関する主な業務歴や取得資格、または、これから教育・学修支援にどのように関わるか、関わっていききたいかをご記入ください。

記入してください

ALPS プログラム受講履歴
ALPS 公開講座の修了状況について、該当するものにチェックを入れてください。当該テーマの履修免除が可能です。ただし、受講料の減免はありません。

「教育の ICT 化と教材開発支援」 テーマ（2021 年 11 月～12 月開講）
 「教育の ICT 化と教材開発支援」 テーマ（2022 年 11 月～12 月開講）
 修了テーマなし

教育訓練給付金制度
現時点での利用予定を教えてください。制度については募集要項を参照ください。
2023 年度利用可否は決まり次第 web サイトでご案内します。
なお利用いただけるのは「ALPS 履修証明プログラム（120 時間）」のみです。

利用を予定している
 利用を予定していない

以下①②は、総合的テーマおよび総合的テーマに関する記入項目です。ALPS 履修証明プログラム（120 時間）履修希望の方は必ず記入してください。各ショートコース（64 時間）履修希望の方は記入不要です。

【①興味のあるキーワード選択】
総合的テーマ「教育・学修支援マネジメント」は、グループワークを行います。
「興味のあるキーワード」及び「プロジェクト研究・実習で取り組んでみたい研究課題」を参考に、グループ分けをおこないます。

| | | |
|------------------|----------------|-----------------|
| 1.学修成果 | 2.大学評価・内部質保証 | 3.大学のカリキュラム |
| 4.発達障害・身体障害・精神疾患 | 5.学生相談・カウンセリング | 6.キャリア支援 |
| 7.留学生支援 | 8.キャンパスのグローバル化 | 9.アンケート調査の設計と分析 |
| 10.アクティブラーニング | 11.評価の妥当性・信頼性 | 12.ラーニングコモンズ |
| 13.大学図書館 | | |

| | | | |
|--|---|---|----|
| 上記の中から、興味のあるキーワードを <u>順に3つ</u> 選択してください。 | 1 | 0 | 11 |
|--|---|---|----|

2023年度アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成履修証明プログラム
申込書（記入例）

※この様式は web サイトからダウンロードできます

【②プロジェクト研究・実習で取り組んでみたい研究課題】

総括的テーマ「プロジェクト研究・実習」は、教育・学修支援を推進するための具体的課題解決を企画・研究するものです。研究したい課題や概要をご記入ください。

※ご記入いただいた課題で確定ではありません。途中で課題が変更になることもあります。あくまでも申込の時点での「取り組んでみたい研究課題」をご記入ください。

テーマ：記入してください

概要：記入してください